

小 学 校

平成 2 7 年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究方法	2
V	研究構想図	3
VI	研究内容	4
VII	研究の成果と課題	23

研究主題

望ましい集団活動を通して、つながりを大切にする児童の育成

～学級活動における振り返りの工夫～

I 研究主題設定の理由

これからの子供たちには、社会の加速度的な変化の中でも、社会的・職業的に自立した人間として、伝統や文化に立脚し、高い志と意欲を持って、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる（平成 27 年 8 月 26 日 中教審教育課程企画特別部会 論点整理）。

特別活動においては、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視している。実践を通してよりよい人間関係を築く力を高めるためには、体験活動、生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢の子供たちからなる集団による活動などを一層重視していく必要がある。児童は、学校生活の中で、委員会、クラブ活動、異年齢グループなど様々な集団に属しているが、中でも、所属する学級の一員として、同じ年齢の友達と一緒に生活する時間が最も長い。学級活動は特別活動の基盤となる教育活動である。そこで、本研究では特に「学級活動」に焦点を当てることとした。

実態調査の結果から、「それまでの活動での学びを次回の活動につなげること」、「新しいめあてを立てるときに前回の振り返りからつなげて考えること」、「友達や自分のよさを見付けたり、他人とのつながりを良好に保ったりすること」が苦手であることが分かった。

児童が様々なつながりの中で生活をしていることを踏まえ、これらの課題を解決するためには、つながりを大切にできるようにすることが必要であると考え、研究主題を、「望ましい集団活動を通して、つながりを大切にする児童の育成 ～学級活動における振り返りの工夫～」と設定した。

なお、本研究では「つながり」について、以下のように捉えることとした。

1 人間関係のつながり

- ・自分と他者との関わり、自分と集団との関わりなど

2 活動相互のつながり

- ・学級活動の事前指導→話し合い→実践→事後指導の一連の活動、実践と次の実践との関連、行事と行事の関連など

本研究において「つながりを大切にする児童」とは、「いろいろな人に進んで関わり、自分のよさや友達のよさを認め合うことができる児童」「自分たちの活動を振り返り、成果を次の活動に生かすことができる児童」のことである。これらのつながりを児童に意識させるためには、振り返りの指導に重点を置くことが必要であると考えた。自己や他者との関わりについて振り返らせることで、他者と進んで関わって人間関係を広げ、自分のよさや友達のよさを生かそうとする意識や態度が見られるようになることを考える。また、一つ一つの活動の振り返りを丁寧にさせることで、前回の実践の成果を次の活動に生かしながら児童は成長すると考えている。

II 研究の視点

研究主題を踏まえ、振り返りの工夫に関する二つの視点を設定し、研究を進めていくこととした。

1 互いのよさを認め合うことができる振り返りの工夫

つながりを大切にする児童には、他者と進んで関わって人間関係を広げ、自分のよさや友達のよさを生かそうとする姿が期待される。自分のよさや友達のよさを生かすためには、まず、よさに気づき認め合う活動が必要となる。学級活動においては、自分自身や友達のよさを、振り返りの場面で言葉に表すことができる。振り返りを工夫することで、自分自身や友達のよいところに気づき、認め合い、人間関係を広げていくことができると考える。

2 話合いや実践の成果を次の活動に生かすことができる振り返りの工夫

つながりを大切にする児童には、自分たちの実践を振り返って、次の活動に生かそうとする姿が期待される。学級活動においては、一つの実践を通して得られた成果を、振り返りを工夫することによって見つめ直し、次の活動に生かしていくことができる。振り返りを積み重ねることで、自分たちの成長を実感するとともに、更に次の活動への意欲を高めていくことができると考える。

III 研究仮説

上記の視点から、研究主題に迫るため、以下のとおり、研究の仮説を設定した。

学級活動において、児童が自分や友達のよさを言葉に表して振り返るとともに、実践を通して得られた成果について振り返ることができるようにすれば、つながりを大切にする児童が育つであろう。

IV 研究方法

1 調査研究

- (1) 調査研究・・・質問紙による
- (2) 調査対象・・・教育研究員所属都内公立小学校8校の第5・6学年児童(880人)

2 実践研究

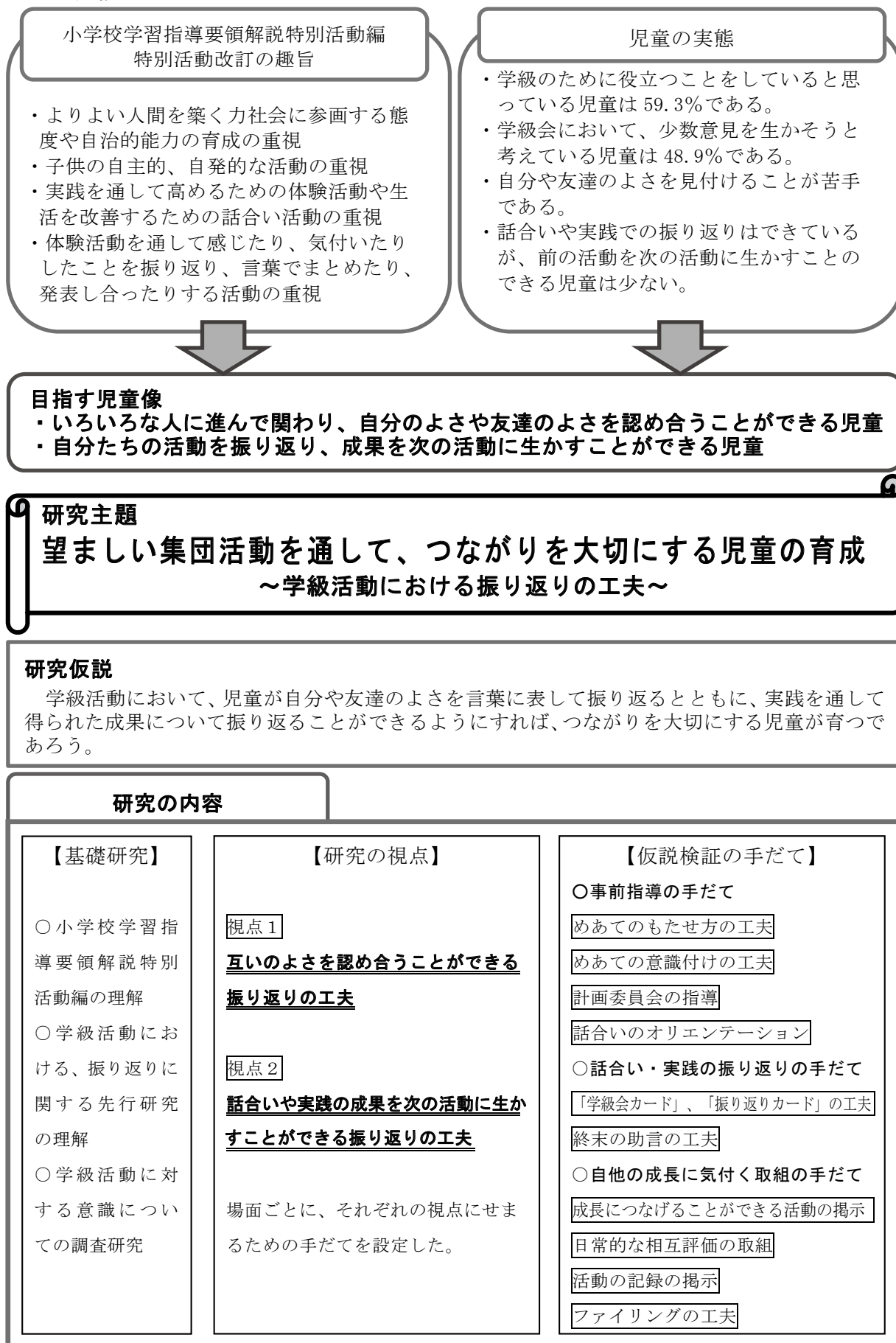
学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」(2)「日常の生活や学習への適応及び健康安全」
における検証授業

ア 話合い活動

イ 話合い活動に基づく実践

ウ 話合い活動の振り返り、実践の振り返り

V 研究構想図



VI 研究内容

1 調査研究

(1) 調査目的

- ア 研究の仮説と視点を検証するために、学級活動に対する意識についての実態を把握する。
- イ 児童の実態を把握し、適切な指導の手だてを設定する。

(2) 調査対象

研究員の所属する都内公立小学校8校 全33学級 回答総数880人
(第5学年16学級、第6学年17学級)

(3) 調査時期

平成27年9月

(4) 調査結果

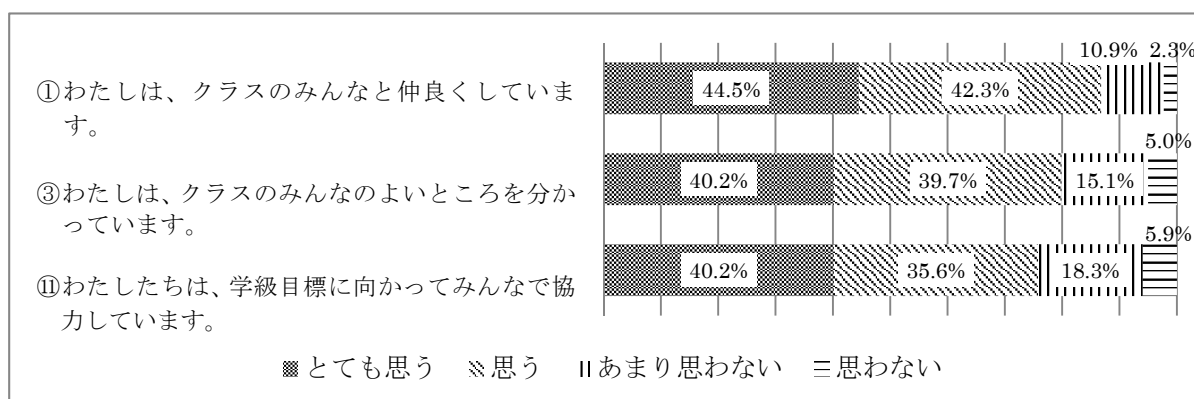
12項目のアンケート形式で行った。項目は次のとおりである。

質問番号	質問内容	とても思う	思う	あまり思わない	思わない
①	わたしは、クラスの人々と仲良くしています。	44.5%	42.3%	10.9%	2.3%
②	わたしは、自分のよいところを分かっています。	20.1%	36.5%	32.4%	11.0%
③	わたしは、クラスみんなのよいところを分かっています。	40.2%	39.7%	15.1%	5.0%
④	クラスには、わたしのよいところを分かっている友達があります。	31.7%	34.4%	24.8%	9.2%
⑤	わたしは、クラスのために役立つことをしています。	21.6%	39.4%	29.8%	9.2%
⑥	わたしは、学級会などの話し合いで、少数意見を生かす方法を考えています。	19.5%	30.7%	36.3%	13.5%
⑦	わたしは、今までの係活動で振り返ったことを次の係活動に生かしています。	28.6%	40.0%	24.5%	6.8%
⑧	わたしは、今までの学級会で振り返ったことを次の学級会に生かしています。	26.7%	32.7%	30.4%	10.1%
⑨	わたしは、学級活動で話し合っ実践したことを振り返り、次の活動に生かしています。	26.5%	34.2%	28.8%	10.5%
⑩	わたしは、今までの行事で振り返ったことを次の行事に生かしています。	34.7%	39.3%	17.8%	8.2%
⑪	わたしたちは、学級目標に向かってみんなで協力しています。	40.2%	35.6%	18.3%	5.9%
⑫	わたしは、学級活動(話し合い活動、係活動、集会活動など)が好きです。	52.1%	25.1%	14.6%	8.2%

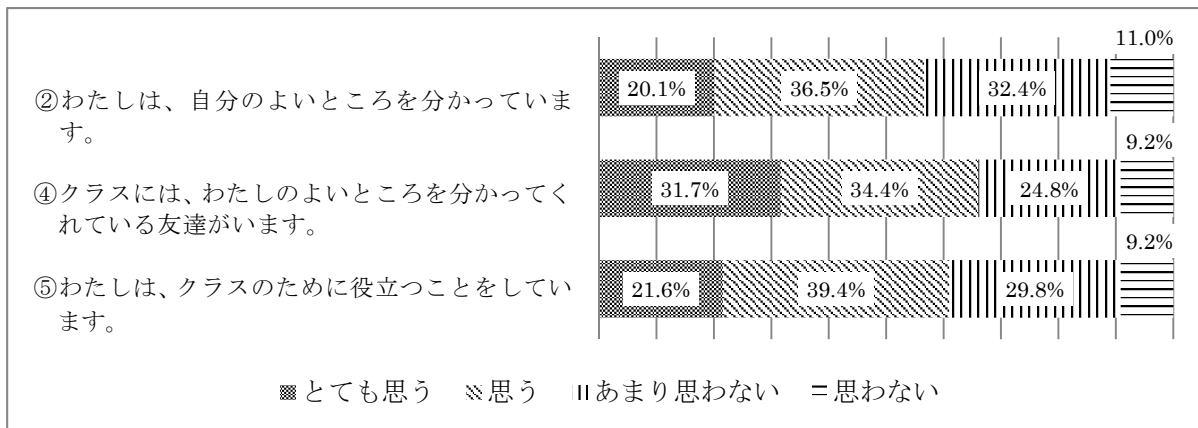
(5) 調査結果の分析

調査の結果を仮説検証の視点1、2に沿って考察する。

<視点1 互いのよさを認め合うことができる振り返りの工夫>

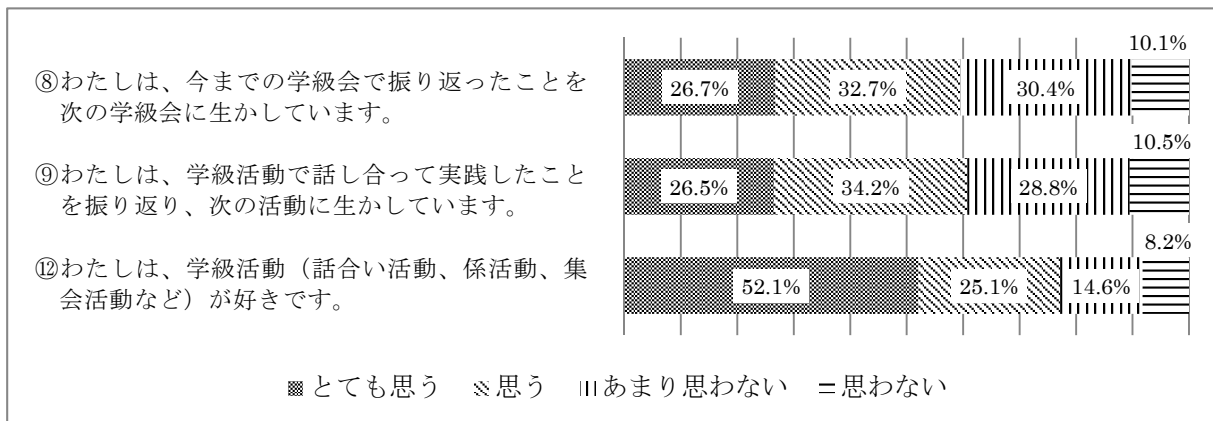


質問①「わたしは、クラスの人々と仲良くしています。」や質問③「わたしは、クラスみんなのよいところを分かっています」、質問⑪「わたしたちは、学級目標に向かってみんなで協力しています。」では、肯定的な回答(「とても思う」と「思う」)が8割を超え、多くの児童が学級の友達のよさに気付き、仲良く過ごしていることが分かる。また、学級目標に向かって友達と協力している児童が多いことから、自分の学級への所属意識をもって学校生活を送っていることが推測される。



一方で、質問②「わたしは、自分のよいところを分かっています。」や質問④「クラスには、わたしのよいところを分かってくれている友達がいます。」、質問⑤「わたしは、クラスのために役立つことをしています。」では、肯定的な回答が6～7割程度にとどまり、自分のよいところに気付くことができない児童がいることが分かる。また、先述した質問①③⑩の1～2割の児童は否定的な回答（「あまり思わない」と「思わない」）をしている。つまり、友達との関係が十分に築けず、友達と協力できていない児童も少なからずいることが分かる。そこで、学級活動において振り返りの場を工夫し、友達のよさを伝えたり、自分のよさを確かめたりすることを通して、互いのよさに気付き、認め合う機会を意図的に設けることで、人間関係を広げ、深めていくことが必要であると考えた。

<視点2 話し合いや実践の成果を次の活動に生かすことができる振り返りの工夫>



質問⑫「わたしは、学級活動（話し合い活動、係活動、集会活動など）が好きです。」では、児童の8割近くが肯定的な回答をしており、学級活動が好きな児童が多いことが分かる。

一方で、質問⑧「わたしは、今までの学級会で振り返ったことを次の学級会に生かしています。」、質問⑨「わたしは、学級活動で話し合っって実践したことを振り返り、次の活動に生かしています。」では、「とても思う」の回答は全体の2、3割にとどまり、多くの児童が前の活動を次の活動に生かしきれていないことが分かる。つまり、それぞれの活動がその場限りで終わってしまい、その成果が後の活動につながっていないと言える。

そこで、学級活動における振り返りを積み重ねることにより、自分たちの成長を実感し、更に次の活動への意欲を高めていくことが必要であると考えた。

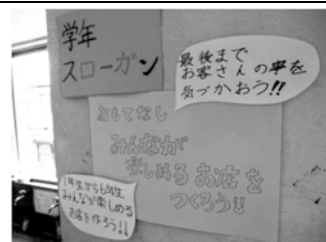
2 実践研究

(1) 検証授業（第1回）（平成27年7月14日）

【題材】「サマーフェスティバルを振り返ろう」第6学年 学級活動（2）

【活動の概要】

本校の6年生は、7月までの大きな行事として、運動会と宿泊行事を経験している。これまでの行事で培ってきた学年の力を夏休み以降の行事へもつなげてほしいという教師の思いがあり、本時では、サマーフェスティバルの事後活動を取り上げることとした。

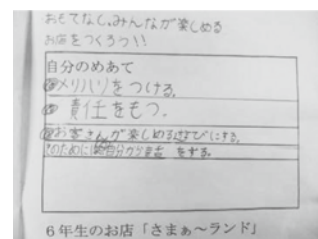


サマーフェスティバルのねらいは、児童が中心となって計画や準備を進めることで自主的・実践的な態度を育てること、店づくりを通して友達と協力することの大切さを実感すること、他学年の店に参加することにより相互の関わりを深めることの3点である。6年生は三つのグループに分かれて店を出し、準備も当日の店も協力しながら自主的に作り上げることができた。

本時では、学年スローガン「おもてなし みんな（全校児童）が楽しめるお店を作ろう！！」から立てた自分のめあてを振り返るとともに、学年スローガンを振り返る活動や、友達のよさを見付け合う活動、次の行事への見通しをもつことができる活動を取り入れた。

【事前の指導】

児童会スローガンを踏まえて、実行委員会を中心にして学年スローガンを決めた。また、児童一人一人が自分のめあてを立てて活動した。



三つの店の内容は、実行委員を中心に学年全員で考えた。活動後の振り返りを続けることで、実践を見直し時間を意識して準備することができた。また、感じたことや次につなげていきたいことを「振り返りカード」に書いて発表したことで、その時間のよかったところや課題を学年全員で共有することができた。



また、活動の結びに「キラキラさん見付け」（友達のよかったところを見付ける活動）を行った。学年全員の前で友達から賞賛されることで、更に意欲的に活動を進めたり、学級の枠にとらわれずに友達のよいところを見付けたりすることができた。

【行事当日の様子】

当日は、くじを引いた友達や教室で隣の座席にいる友達のよさを重点的に見付け、「シークレットフレンドカード」を書く日とした。

活動の時間では、三つの店で前・後半にそれぞれ分かれて仕事をしたり店めぐりをしたりした。店では、一人一人が役割をもって仕事をし、お客さんを丁寧にもてなそうとする姿が見られた。また、店巡りでは、他学年の店に出向いてよさを見付けようとしている姿も見られた。片付けも協力して最後まで行うことができた。

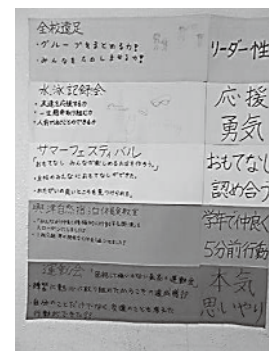


【本時の様子】

	活動の内容	手だて
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【題材】 「サマーフェスティバルを振り返ろう」 </div>	
話 合 い	○サマーフェスティバルの事前活動と当日の様子をスライドショーで見る。また、当日の他学年からの感想をビデオで視聴する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 成長につなげることができる活動の提示 スライドショーには運動会と宿泊活動の様子も入れ、活動のつながりを意識させる。また、6年生の店に来た児童の様子を写真で見たり、感想をビデオで視聴したりすることにより、自分たちの頑張ってきた様子を振り返ることができるようにする。 </div>
	○他学年のよかったところを見つけて、カードに記入し、発表する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> スライドショーは自分たちの成長を感じさせることができる有効な活動である。見る時の視点を児童に明確に伝えることが必要である。 </div>
振 り 返 り	○友達に「シークレットフレンドカード」を書き、カードの交換をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 日常的な相互評価の取組 友達に対して、一言、よかったところを口頭で伝えてからカードを渡すように指導する。 </div>
	○自分のめあてと学年の様子を振り返り、発表して共有する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 「シークレットフレンドカード」は、友達のよさを積極的に探すきっかけとなる。継続していくことが大切である。 </div>
	○次の行事に向けての意欲を高める。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 振り返りカード、学級会カードの工夫 今までの行事を振り返ることのできる行事ファイルを用意する。 </div>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 行事の振り返りカードを一つにまとめてファイルにしておくことは、前の行事とのつながりを意識して活動することができる有効な手だてである。 </div>

【視点に対する考察】


サマーフェスティバルでは学年から学校全体へと視野を広げて、前の行事から更に高学年としての意識が高まるスローガンを立てることができた。授業後の「キラキラさん見付け」に加えて、フェスティバル当日に「シークレットフレンドカード」を取り入れたことで、友達のよさを探そうとする児童が増えた。また、フェスティバルの準備でも、毎時間振り返りを行うことで、次の時間の活動をよりよくしようとする意識をもつことができるようになった。この一連の流れから自分たちの成長に気付いた児童も多い。本時では、「シークレットフレンドカード」を活用するところまでは至らなかった。振り返りカードに貼っていつも見ることができるようになったり、時には掲示して友達のよさを伝え合ったりする等、カードの活用については、今後一層の工夫が必要である。



(2) 検証授業 (第2回) (平成27年9月11日)

<p>【議題】 「みんなが団結できるような学級の旗をつくる計画を立てよう」 第5学年 学級活動(1)</p> <p>【提案理由】 「今よりもっと仲が深まって、行事でも普段でもみんなが団結できるようなクラスになるために、クラスの旗が必要だと思うから。」</p> <p>【話し合いのめあて】 団結できるような旗をつくるために集中して学級会に取り組もう。</p> <p>【話し合いの柱】 ・旗のデザインはどのようにするか ・旗の使い道はどのようにするか</p>
<p>【活動の概要】</p> <p>春季に行われた運動会では、児童会から配られた模造紙大のスローガンに一人一人のめあてを書きこんで本番を迎えた。終了後の「振り返りカード」から、児童はスローガンやめあてに向けて本気で取り組めたという実感が得られたことが分かった。教室に掲示された1年間の行事予定を見て、2学期は移動教室や学習発表会など、多くの行事があることに気付いた児童から、「クラスの旗があれば、運動会の時のようにみんなが団結できるクラスになれる」という意見が議題掲示板に寄せられた。計画委員会が2学期最初の議題に適切であると考えて選び、学級の全員でこの議題について話し合うことを決定した。</p> <p>終末の助言では、「全員の思いが込められた旗」という解釈の違いを整理し、みんなが納得できる決め方はないかを問い掛け、話し合いを終えた。</p> <p>次の日の朝の会には、賛成者がいるデザインを合わせて作ったものを片面とし、もう片面は学級全員がそれぞれ考えた旗を小さな紙に描き、模造紙に貼り付けたものにすることを決定した。</p>
<p>【事前の指導】</p> <p>○計画委員会への助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまく話し合えなければ失敗になってしまうような話し合いのめあてではなく、一生懸命取り組むことにより、みんなが達成できるようなめあてを立てるように指導した。 ・自分のめあてを意識できるようにするために、話し合いを始める前に自分のめあてを隣の友達に伝え合う時間を設けた。 <p>○学級全体への助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてを立てることや振り返りをしやすくするために、「学級会カード」と「振り返りカード」の内容が含まれた1枚のプリントを作成した。 ・振り返りを生かした話し合いや実践を行うことができるようにするために、「学級会カード」と「振り返りカード」をファイリングさせた。 ・互いのよさを認め合えるようにするために、話し合い活動の中に「今日のMVP」と称して、友達によかったところを発表する時間を設定した。 ・計画的に児童を育てるために、話し合い活動や実践を振り返る中で、研究の視点に沿っている内容を終末の助言で伝えるとともに、話し合った内容を教室に掲示し、意識しやすい環境づくりを心掛けた。

【本時の様子】

	活動の内容	手 だ て
話し合い	<p>○個人のめあてを隣の友達と伝え合う。</p> 	<p>めあての意識付けの工夫</p> <p>めあてを隣の友達に発表することで、めあてを意識して学級会に臨めるようになる。めあてを設定した理由まで付け加えて伝えられるようにすると、伝えられた友達は、友達のめあてを意識して友達の取組を認めようとする。</p>

話 合 い	<p>柱1 どんな旗のデザインにするか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個性がいっぱいだから虹を描く。 ・みんなの名前とよいことを書く。 ・学級目標のマスコットを描く。 ・人数分の星を描く。 ・高学年として学校を照らせるように太陽を描く。 ・「どれも団結を意識できるデザインだから、どうやって決めようか。」 	<p>みんなの意見のよいところを見ようとしたり、頑張って発言してみようとしたりする姿が見られるなど、個人のめあてを意識して集中して取り組んでいる姿が見られた。</p>
振 り 返 り	<ul style="list-style-type: none"> ○「振り返りカード」に記入する。 ○認め合い活動をする。 ・「Aさんは今日のめあてを意識して、自分の意見をきちんと発表していました。」 ・「今日は柱1を決めることができなかつたけれど、みんなが提案理由を意識して発言していたと思います。」 	<p>「学級会カード」、「振り返りカード」の工夫</p> <p>自分の立てためあてを振り返ることで、次回にめあてを決める時の参考にできる。振り返りの枠を工夫し、学級全体の成長に目を向けて振り返らせることで、学級としての話合いのレベルアップにつなげることができる。</p>

【事後の様子】

本時の話合いでは、「賛成意見が多かったデザインを採用するのか。」「賛成意見があったデザインを合わせて一つの旗を作るのか。」という児童の考え方の違いが論点にならず、話合いが進んでいったため、時間内に決定することができなかった。終末の助言で話合いの進め方を整理した後に、決定への見通しをもって話合いを進めることの大切さについて考えさせた。

本時終了後に活動の足跡として、活動のよかったこととこの時間の課題を掲示した。教室掲示として残すことで、計画委員会の話合い時に参考にしたり、話合いの進め方を修正したりできるようになった。

【実践の様子】



旗は、教室前方に飾られている。集会の時や行事の時には、一人一人のめあてを付箋紙に記入し旗に貼り付けて活動を行っている。また、実践後旗と一緒に全員で写真撮影することが学級のきまりになるなど、学級への所属意識を高める場面ではなくてはならないものになっている。

【視点に対する考察】

学級会の始めに個々一人一人のめあてを近くの友達と伝え合う活動を行ったことで、「振り返りカード」に自分のめあて達成に向けた努力や、めあて達成に向けた友達の努力が記入されることが多かった。振り返りを充実させるためには、とても有効であった。


「振り返りカード」の中に、次回に生かせそうなことやめあてに対する振り返りを書かせることで、よりよい活動へとつながった。

「振り返りカード」に書く内容の多さから時間内に書き終わられる児童が少なく、書く内容を精選するなど、改善して今後の授業で検証することが必要である。

(3) 検証授業（第3回）（平成27年10月27日）

<p>【議題】 「今よりもっと仲良くなるような仮装パーティーの計画を立てよう」 第6学年 学級活動（1）</p> <p>【提案理由】 「今よりもっと仲良くなって、みんなで楽しめるパーティーにしたいから。」</p> <p>【話合いのめあて】 仲良くなる工夫を考えよう。たくさん発言しよう。</p> <p>【話合いの柱】 どのような内容にするか。</p>
<p>【活動の概要】</p> <p>本議題は、2学期に提案されたものである。1学期は、教育実習生のお別れ会、1学期最後のお楽しみ会と、議題が自然と決まる形であったため、2学期になり学級活動オリエンテーション2（事前指導の手立て）を行い、学級会の時間はどのような時間なのかを再確認した。その後「2学期に学級のみんなでやりたいこと」について、議題をいくつか出させた。その中から、学年で行う「区の体育大会を自分たちで盛り上げよう」という議題と「クラスがもっと仲良くなるためのお楽しみ会をしよう」という議題を、全体で話し合うこととして取り上げることになった。議題の決定の段階では「何のために楽しくしたいのか」「みんなの求める楽しさとは何か」など、考えを深めるための助言を行い、活動への意欲を高めていった。本活動では、「仲良くなる工夫」に重点をおき、話合いが進むように指導した。</p> <p>「仲良くなる工夫」は、①おにはグループで追いかけること、②友達のよいところを見付けること、③おばけやしきでは、おどかした後に自分の名前を言うこと、④学年で歌っている歌を歌うことなどが決まった。準備ではどの役割分担も準備の時間が同じになるような工夫も見られた。実践では、これらの仲良くなる工夫が生かされ、充実した時間を過ごすことができた。</p>
<p>【事前の指導】</p> <p>○計画委員会への助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話合いの前に、「自分のめあての確認」の時間を設定し、進行できるようにした。 <p>○学級全体への助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学級会カード」と「振り返りカード」をファイリングした。積み重ねてきたものを見ることができるようになることで、振り返りを生かした話合いや実践を行うことができた。 ・互いのよさを認め合い、次につなげていくために、話合いの中でよかったこと、頑張っていた友達、次に生かしたいことを書いて発表する時間を設定した。教師は研究の視点に沿った内容を記載している児童を積極的に紹介したり、発表したりできるようにした。

【本時の様子】

	活動の内容	手 だ て
話 合 い	<p>○仮装パーティーの内容について話合う。</p> <p>柱1 どのような内容にするか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>事前に提案された内容 仮装かくれおにごっこ 仮装リレー 仮装して写真を撮る 劇 スタンプリレーおばけやしき 仮装してだれでしょうゲーム</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「チームで活動するものの方がクラスの仲が深まると思う。」 ・「運動が苦手な人も楽しめるようにしましょう。」 ・「学級目標の『最高の思い出』につながるので、集合写真を撮りたいです。」 	<p>めあての もたせ方の工夫</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>提案理由だけでなく、学級の目標を意識して発言した児童を称賛することで、他の児童も学級の目標を意識して発言することができるようになる。</p> </div> 

振り 返 り	<p>○「振り返りカード」を記入する。</p> <p><自分のこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてが達成できた。 ・分かりやすく伝えようと頑張ることができた。 <p><友達やクラスのこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問がたくさん出てよかった。 ・全員が意見を言えるようにしたい。 <p><次に生かせること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・反対の意見も大切にしたい。 ・相手を納得させるような意見を言えるようになりたい。 ・司会として、問い掛けるようにみんなに意見を聞いて話し合いを進めたい。 	<p>「学級会カード」、「振り返りカード」の工夫</p> <p>ファイリングの工夫</p> <p>振り返りの観点をカードに示しておくことにより、友達の良いところを意識したり、次時に向けての思いをまとめたりすることができる。</p>
	<p>○教師の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案理由に沿った意見が出た。 ・友達の発言を最後まで聞くことができた。 ・柱1の途中で終わってしまったが、仲良くなる工夫に触れていた人がたくさんいた。 	<p>終末の助言の工夫</p> <p>提案理由に沿った内容の発言や、友達のことを考えた発言を取り上げることで、今後の学級会や集会で、提案理由を踏まえた発言をしたり、行動したりする児童が増えていくと考える。</p>

【事後の様子】

話し合いが「どのような内容にするか」だけで終わってしまったため、司会グループの引き継ぎの中で、内容を決定するのは朝の会等で行うことを確認した。

決定した内容は、「かくれおにごっこ」「おぼけやしきスタンプラリー」の二つである。また、仲良くなるための工夫では、①輪になって歌を歌う(帰りの会で毎日歌っている歌)。②集会後に友達同士交換し合うための「よかったところカード」を作る。③チームをくじで決める。④おにはグループで追い掛けることが決定した。

【実践の様子】

話し合いで決定した仲良くなる工夫を、全員が実行していた。友達のよいところをカードに書き交換する活動にも、真剣に取り組んでいた。輪になって歌を歌うときに「今回のめあては仲良くなることだから、いつもと違ったメンバーとも手をつなごうよ。」という声が自然に上がった。また、「卒業に向けて学級の友達同士で更に高め合っていきたい。」という代表児童の終わりの言葉に、多くの児童がうなずいていた。

【視点に対する考察】


「振り返りカード」をファイリングし、前回までの振り返りが見えやすいように机の上に置いて学級会を進めることで、これまでの積み重ねを意識しためあてを書いたり、発言したり児童が増えた。話し合いの前に互いのめあてを発表し合うことで、今までよりも、友達のよさを具体的に探そう、認めようとしていた。しかし、折り合いを付けて集団決定するための発言は少なかった。終末の助言だけでなく、翌日の朝の会でも折り合いを付ける工夫について取り上げて次回への課題とした。


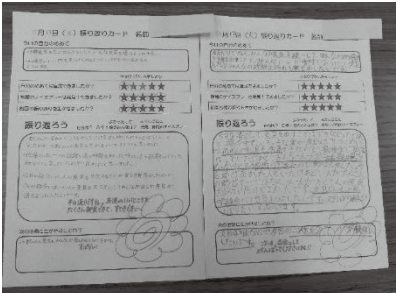
(4) 検証授業 (第4回) (平成27年11月17日)

<p>【議題】 「学級が今よりさらに仲良くなるようなお楽しみ会の計画を立てよう」 第5学年 学級活動(1)</p> <p>【提案理由】 「川場移動教室、運動会、お楽しみ会を通して、学級は仲良くなってきたが、更に仲良くなるために、2学期お楽しみ会を行いたい。」</p> <p>【話合いのめあて】 一人一人の意見を大切にして、学級が更に仲良くなれるように話し合おう。</p> <p>【話合いの柱】 ・更に仲良くなる会の内容を考える。 ・役割分担を決める。</p>

<p>【活動の概要】</p> <p>本学級では、朝の会などを使って、1か月に1回、一斉に議題集めをしている。運動会が終わり、学芸会の練習が始まった時期にもかかわらず、「2学期最後のお楽しみ会の計画を立てよう。」という議題が数多く集まった。前回の集会活動で準備不足を反省に挙げた児童が多かったために、早めに準備をスタートしたいという気持ちが高まったからと考えられる。議題を決める話合いを朝の会などに行った際に、「準備をしっかりしたい」「時間配分を考えて企画したい」「学級目標に更に近づくような会にしたい」「クラスの友達と仲良くなってきたけれど、更に深めたい」などの意見が出され、2学期最後のお楽しみ会の期日を12月24日に設定し、1か月前後準備期間を設けることが決定した。</p> <p>話合いのめあては、計画委員が前回の振り返りを踏まえて「一人一人の意見を大切にして、学級が更に仲良くなれるように話し合おう。」と設定した。1学期最後の振り返りで、「1学期は、少数意見を大切にすることができなかった。」という内容の記述が多かったため、2学期の話合い活動では、「一人一人の意見を大切に」という言葉が毎回めあてに入るようになった。事前に一人一人が学級会カードに書いた考えを生かして、初めて意見を発表した児童が数多く見られた。提案理由に沿った意見や学級目標を意識した意見も出されたが、代案のない反対意見や提案理由に沿っていない意見も出され、集団決定まで至らない話合いの柱もあった。今回の話合いの振り返りを共有して、話合いを再度行い、お楽しみ会で行う内容を決定することができた。実践では、「学級が更に仲良くなる会にしよう。」という共通の目標をもち、自分の役割に一生懸命に取り組んで臨んだ結果、「目標を達成できた。」「またみんなで会を企画したい。」などの感想が上がり、多くの児童が充実感を味わうことができたと考えられる。</p>
--

<p>【事前の指導】</p> <p>○計画委員への助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話合いのめあては、前回までの計画委員の振り返りや引き継ぎを生かして、計画委員の児童と担任で検討して決定した。その際に、前回の反省点を改善することに焦点化し、意欲的に話合いに臨めるようなめあてを考えるよう助言した。 ・計画委員と担任が休み時間を中心に、話合いの流れを考えたり、計画委員の不安を解消したりした。学級会カードに書かれている児童の意見を整理して、話合いに臨むことができるように確認した。 <p>○学級全体への助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回までの個人の振り返りや学級全体での振り返りを生かし、話合いがよりよいものになるように助言した。自分で決めることが難しい児童には、個別に指導を行った。
--

【本時の様子】		
	<p>活動の内容</p> <p>○会の内容について話し合う。 柱1 さらに仲良くなる会の内容を考える。</p> <p>事前に提案された内容 ツリーづくり カード交換 出し物 屋台コーナー みんなが楽しめる遊び</p>	<p>手 だ て</p> <p>めあての意識付けの工夫</p> <p>個人のめあてを周囲の児童同士で伝え合うことで、より意識して友達のよさを発見することができる。</p> 

<p>話し合い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「前回の集会では、できなかったことをやってみたらいいと思う。」 ・「提案理由が仲良くなることだから、仲良くなることを意識した意見を出したい。」 	<p>「学級会カード」、「振り返りカード」の工夫</p> <p>事前に一人一人が「学級会カード」に書いた考えを生かして、初めて意見を発表した児童が数多く見られた。</p>
<p>振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りカードを記入する。 ○教師の話聞く。 ・「たくさんの方が活発に自分の考えを発表していました。」 ・「前回までの振り返りを生かし、めあてを達成していました。」 ・「友達の意見を受け止めて、自分の意見を言うことができました。」 ・「反対意見を理由とともに初めて言えた人がいました。」 ・「遊びを検討する時に、負けた人のことを思いやった発言がありました。」 ・「提案理由に沿って発言できると更によくなります。」 ・「友達のよいところをたくさん発見して、振り返りに書くことができました。」 	<p>「学級会カード」、「振り返りカード」の工夫</p> <p>終末の助言の工夫</p> <p>「次の活動に生かせることは何か。」という視点から振り返ることで、次回に成果や反省を生かすことができるようになった。</p> 
<p>【事後の様子】</p> <p>話し合いの翌日の朝の会で、「振り返りカード」の内容を学級全員で共有する時間を設けた。友達のよさに気づき、互いのよさを認め合うきっかけになった。</p> <p>友達や話し合いを助けた発言や合意形成を促した発言を話し合いの翌日に紹介して、掲示した。</p> <p>計画委員で振り返りを行い、その内容を学級全体で共有する場を設けた。次回の計画委員への引継ぎも合わせて行うことで、今回の成果や課題が明確になり、次回の話し合いに生かそうとする意欲が高まった。</p>		

【視点に対する考察】

話し合い活動では、前回までの振り返りを生かして、個人のめあてを立てた結果、今までほとんど発言することがなかった児童が数多く発言することができた。また、今まで、少数意見を大切にしながら、話し合いを進めてきた結果、なかなか出ることが少なかった反対意見も理由を付けて発言する児童が見られた。しかし、提案理由に沿った意見より個人の考えによるものが多くあり、課題が残った。今後は、提案理由に沿って意見を発表する指導が必要である。常に提案理由に沿って話し合いを進めることができるよう、話し合いを焦点化しやすい文言を提案理由に取り入れる必要を感じた。

また、児童が振り返った成果や課題を学級で共有した後に、どのようにしたら課題を改善できるのか、問題を解決できるのか具体的に指導する必要があると実感した。学期の最初に行った「オリエンテーション2」（事前指導の手だて）を踏まえて、毎回の学級会後や翌日の朝の会などを利用して、振り返った内容を共有し、指導を積み重ねていくことが、更に児童の成長を促すと考えた。

VII 手だてと変容

本研究では、研究仮説を検証するための手だてについて、研究の視点とともに、「事前指導」、「話し合い・実践の振り返り」、「自他の成長に気付く取組」の三つの場面ごと整理した。また、それぞれの手だてによる児童の変容について検証した。

表 研究の視点と指導場面における手だて

	視点1 互いのよさを認め合うことができる振り返りの工夫	視点2 話し合いや実践の成果を次の活動に生かすことができる振り返りの工夫
事前指導の手だて	めあての意識付けの工夫 (事前にめあてを周囲の児童同士で伝え合う)	めあてのもたせ方の工夫 (提案理由に沿った活動ができるよう例示する) 計画委員会の指導 (前回の振り返りを生かして指導する) 話し合いのオリエンテーション (学年途中で、話し合いの方法を見直す)
話し合い・実践の振り返りの手だて	「学級会カード」、「振り返りカード」の工夫 (友達や学級のよいところを記入する欄を設定する)	「学級会カード」、「振り返りカード」の工夫 (活動を振り返り次時に向けて自分の思いを書く欄を設定する)
	終末の助言の工夫 (友達や学級のことを考えた意見を称賛する)	終末の助言の工夫 (次につながる課題となることを問い掛ける)
自他の成長に気付く取組の手だて	成長につなげることができる活動の掲示 (友達を思いやる発言や話し合いを進める発言等を掲示する)	成長につなげることができる活動の掲示 (課題に気付いたり改善につながったりすることを掲示する)
	日常的な相互評価の取組 (友達のよさや友達へのアドバイスを記入して、伝える)	活動の記録の掲示 (前回の活動を目で見て分かるように掲示) ファイリングの工夫 (活動の振り返りを、ファイルにまとめる)

1 事前指導の手だて

(1) めあての意識付けの工夫

学級会の個人のめあてを、事前に友達と伝え合う活動を取り入れた。めあてを伝え合うことで、以下のような変容が見られた。

① めあてを自分で強く意識することができるようになった。 **視点1**

前回の振り返りをもとにしためあてについて、言葉で伝えることにより、意識化され、めあてを達成しようとする姿勢が強化された。振り返りでは、めあてに基づいた記述が見られた。

② めあてを伝え合った児童同士が、活動後にそれぞれのめあてを踏まえた相互評価を行うことができるようになった。 **視点1**

めあてを聞いた児童は、相手がめあてに向かって努力していたかどうかを振り返りカードに書いたり話したりして、相互評価を行う姿が見られた。

(2) めあてのもたせ方の工夫

提案理由を踏まえて、計画委員会で全体の話し合いのめあてを決定し、一人一人の児童は全体のめあてに沿って個人のめあてを考えた。個人のめあてをもたせやすくするため、以下のような具体例を示した。

<望ましいめあての例>

○振り返りを生かす。

- (例)・前回の活動で反省点として挙げられたことを改善できるようにする。
・前回の話合いでよかったところを生かすようにする。など

○友達のを考えを認める。

- (例)・友達の意見を大切にしながら発言する。
・クラス全体のことを考えて発言する。

○集団決定をする。

- (例)・話合いが進む発言をする。
・提案理由に沿った発言をする。など

○自分の考えを伝える。

- (例)・自分の考えを分かりやすく説明する。など

<取組例>

提案理由 提案者 ()さん	三学期のしめくりとして、みんなで、5の1の思い出を作り、ニコスマを100%に近づけるため。 (ニコスマ)...みんなで、仲良くなり何事も深しもうとする事。
話合いの めあて	みんなが楽しめるような工夫を考えよう。 最後まで話合いに集中しよう。
自分の めあて	自分がやりたいことだけでなく、ニコスマが100%になるにはどのような工夫をすればいいかを考える! ② 話し合いを進め方のアドバイスを話し合いの中でする! 話し合いを進め方は話し合いを進め方ではなく、みんな

提案理由を基に計画委員会で話合いのめあてを立て、そこから各々で自分のめあてを考えた。

具体例を示すことにより、以下のような変容が見られた。

① 提案理由を踏まえた個人のめあてを決めることができるようになった。

視点2

自分にとってどのようなめあてがふさわしいのかを考え、適切なめあてを立てられるようになった。また、提案理由を踏まえためあてを決めることができるようになるとともに、めあてがより具体的になってきた。

② 次の活動への意欲が高まった。

視点2

前回のめあてを振り返らせることで、次にどうしたいかを考えることができるようになり、次の活動につながるようになってきた。また、自分が決めためあてを達成しようとして、意欲的に活動に参加するようになった。

(3) 計画委員会の指導

前回までの学級会の振り返りを生かして計画を立てた。提案理由の練り上げ、計画委員会の引き継ぎ、話合いの柱の選定、役割分担、話合いの進め方などの確認を行った。計画委員会で決まったことを、学級会コーナーに掲示させたり、話合いの予定を事前に周知させたりした。

< 取組例 >

【 司会グループ 学級会事前準備 計画 】

極意「準備(打ち合わせ)で半分が決まる！」

- | | |
|---------------------------|------------------|
| ①議題案の募集 呼びかけ | 全員 |
| ②議題案の整理 (クラスにふさわしい議題かどうか) | 司会グループ |
| ③議題の決定 (提案理由をもとに話し合う) | 全員 |
| ④学級会の準備 -その1- | 司会グループ |
| ・提案者と提案理由を決める | ・前回の司会グループから引き継ぐ |



話し合いのめあてを決定 (内容の重点化と話し合いの進め方)

- ・話し合いの柱 決定、決まっていること 確認、司会グループより 決定
 - ・役割分担⇒ (「学級会カード」・学級会コーナー・黒板計画 準備)
- | | |
|--|--------|
| ⑤「学級会(話し合い)カード」の配布と説明 | 全員 |
| ⑥学級会の準備 -その2- | 司会グループ |
| ・役割ごとにめあて 決定・共有 | |
| ・黒板準備 (議題、提案理由、話し合いのめあて、決まっていることを模造紙に記入) | |
| ・「学級会カード」の回収 ⇒ 短冊に記入 ⇒ 意見の整理 | |
| ・話し合いの流れの予想と作戦 | |
| ⑦リハーサル (こんな時どうする?を相談) | 司会グループ |

計画委員会の進め方をカードにして、児童に分かりやすく示した。

計画委員会 (司会グループ) に対する事前の指導の工夫により、以下のような変容が見られた。

① 前回までの振り返りを意識できるようになった。**視点2**

教師の助言や前回までの児童の振り返りを踏まえて、学級会の計画を立てられるようになってきた。計画委員会の引き継ぎの場を設定することで、よかった点や反省点が明確になり、次の学級会ではそれらを意識した話し合いのめあてを設定し、活動することができた。

② 見通しをもって話し合いを進められるようになった。**視点2**

見通しをもって、話し合いができるようになってきた。回を積み重ねるごとに、役割分担や板書の準備などができるようになってきた。話し合いが論点から逸れていた時は、提案理由に戻るよう指導助言を繰り返すことで、話し合いのめあてや提案理由を意識した意見を述べられるようになってきた。

(4) 話し合いのオリエンテーション

夏季休業後に、「オリエンテーション2」の時間を学級活動(2)で設定した。学級活動に関するアンケートを行い、「これまでの学級活動の反省点は何か。」「問題を解決するために自分たちはどうしたらよいか。」を全員が共通理解をして、更なる質の向上を目指して話し合った。自分たちのよいところや反省点を認識できるようにした。反省点については改善策

を話し合わせた。

<取組例>

例①

【問題点】時間内に決定できない。

【解決策】話し合いの内容を整理し、話し合いの流れを確認した。

- 1 意見を出し合う
- 2 意見を比べる
- 3 意見をまとめる

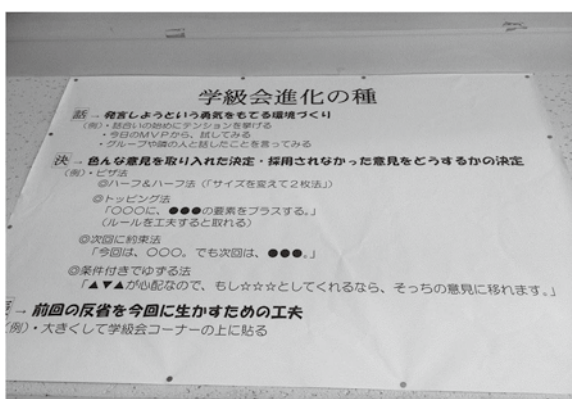
なるべく、意見を出し合う時間を短くするために、休み時間などを使って短冊に書いておくようにした。

例②

【問題点】少数意見が生かされない。

【解決策】みんなの意見が生かされる方法を話し合った。

- 出た意見の順番に活動する
- それぞれの意見のよいところを合体させる
- もとの意見に付け加える



学級全体で更に成長できることは何かを話し合った。また、どのような解決方法があるのか、意見を出し合って掲示した。

これまでの話し合い活動の見直しを行うことで、以下のような変容が見られた。

① 全員で問題を共有し、解決方法を考えることができるようになった。

視点2

一人一人が困っていること（少数意見が生かされない、時間内に決められない、自分の意見が言えない等）を出し合ったり、アンケートの結果を見合ったりすることで、自分の学級の問題を明確にすることができた。学級全体で問題を解決しようという気持ちが高まった。

② 話し合いの進め方の理解が深まった。 **視点2**

少数意見の生かし方や、折合いの付け方など、話し合いの進め方を理解することができるようになった。次回の学級会からどのように話し合いに臨めばよいか分かり、話し合いの質の向上が図られた。

2 話し合い・実践の振り返りの手だて

(1) 「学級会カード」、「振り返りカード」の工夫

話し合い活動や実践において自分のめあてを振り返るとともに、互いのよさを認め合ったり、よりよい活動を目指したりできるようにするため、相互評価や活動の見直しなどを記述できるようにした。また、「学級会カード」と「振り返りカード」を1枚にまとめることで、めあてを振り返りやすくした。これらのカードを工夫することで、以下のような変容が見られた。

① 自己評価を★の数で表すことで前回からの成長を視覚的に感じることができるようになった。**視点1**

少しずつ自己評価が向上していくことで、児童が自分自身の成長を実感することができた。

② 振り返りの枠を工夫することによって、様々な視点から振り返ることができるようになった。**視点1** **視点2**

自分の振り返り、友達の振り返り、学級全体の成長などの視点を示すことで、様々な視点から振り返ることができるようになった。

③ 次の活動に生かしたいことを書く欄を設けることによって、前の活動の振り返りを生かして、次の活動の「めあて」を決めることができたようになった。**視点2**

めあてを決める際に、前回の「振り返りカード」を参考にしてしている児童が増えた。振り返りを次の時間に生かすことが継続されることで、よりよい活動へとつながった。

④ 友達のよさを書くことで、互いのよさを認め合うことができたようになった。**視点1**

友達のよさを書いて発表したり、書いたものを担任が次の日に紹介したりすることで、互いのよさを認め合うことができるようになるとともに、よりよい人間関係が築かれる基盤へとつながった。

<「学級会カード」、「振り返りカード」の例>

学級会カード 名前 ()	
第 () 回 学級会 月 日 () 時間目	
議 題	
提案理由	
提案者 () さん	
話合いのめあて	
自分のめあて	
決まっていること	
司会グループより	
自分の考え・理由	
話合いの柱①	
アイデアとその理由	
話合いの柱②	
アイデアとその理由	

自分のめあて

提案理由を踏まえて学級全体の話合いのめあてを設定し、それを受けて自分のめあてを決めるとともに、前回までの振り返りを意識させる。

司会グループより

計画委員会が、前回の話合いの振り返りを次の話合いに生かせるよう助言する。話合いを進める上の課題を書くことで全員に意識させる。

ふり返りカード

< 今日の学級会をふり返ろう >

★自分のめあては達成できましたか？	★★★★★
★友達のよいところを見付けることはできましたか？	★★★★★
★今回の学級会は前回の振り返りを生かしましたか？	★★★★★

【自分のよかったところ・友達のよかったところ・クラスが今までと比べて成長したところなど】

< 次回の学級会に生かせること >

個人のためへの振り返り
教師が振り返りにおいて大切と考える観点を3点設定し、★の数で成果を振り返るようにした。

記述式の振り返り
見出しに【自分のよかったところ・友達のよかったところ・クラスが今までと比べて成長したところなど】と振り返りの観点を示すことによって、児童が観点に沿って振り返ることができるようにした。

次回に生かしたいこと
振り返ったことを踏まえて次回の活動に生かせることを記述させ、次へのつながりをもつことができるようにする。

(2) 終末の助言の工夫

温かな人間関係を育むために、終末の助言では話し合いにおける児童の発言や行動から、友達の意見を大切にするなど具体的な場面を取り上げながら、承認、称賛、価値付け、励まし、意欲付けなどを行った。

< 終末の助言で取り上げる内容例 >

- 1 提案理由や話し合いのめあてを踏まえた発言の承認・称賛
- 2 計画委員会（司会グループ）へのねぎらい
- 3 自分や友達、学級のよさ、成長したことへの価値付け
- 4 めあての達成に向けて努力していたことへの価値付け
- 5 前回までの振り返りを生かした発言への承認・称賛
- 6 次回の活動に生かすことができる助言
- 7 決定したことの実践への意欲付け

終末の助言を工夫することで、以下のような変容が見られた。

① 友達を思いやる発言や学級全体のことを考えた発言が増えた。 **視点1**

具体的な姿を例に挙げて称賛を続けることで、次は自分もそのような発言をしよう、という思いをもち、めあてを踏まえた発言や振り返りを生かした発言などが多くなった。

② 話し合いの質の向上が見られた。 **視点2**

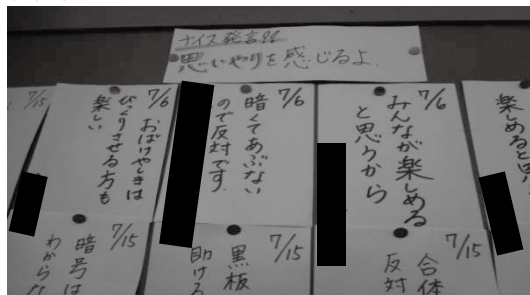
話し合いが充実するきっかけとなるような発言を取り上げて称賛することで、次のめあて設定に生かされ、学級全体の話し合いの技能の向上につながった。

3 自他の成長に気付く取組の手だて

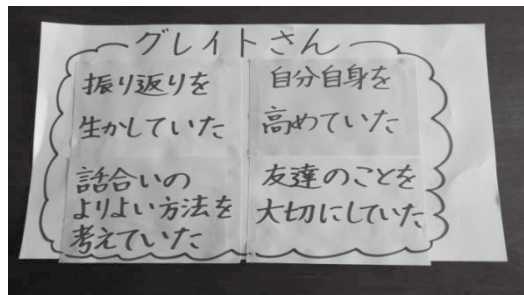
(1) 成長につなげることができる活動の掲示

友達を思いやる発言、話し合いを進める発言、みんなの考えを生かした発言などを紹介し、掲示した。

<取組例>



日付と発言内容、発言者を書いて掲示した。



価値付けたい発言を取り上げた。

掲示をすることで、以下のような変容が見られた。

① 相手を思いやる発言や、話し合いを進める発言が増えた。 **視点1** **視点2**

教室に掲示することで、よりよい関係づくりへの意識が高まった。学級会だけでなく、日常においても掲示された言動が学級全体に広がった。

② 自他の成長を視覚的に捉えることができるようになった。

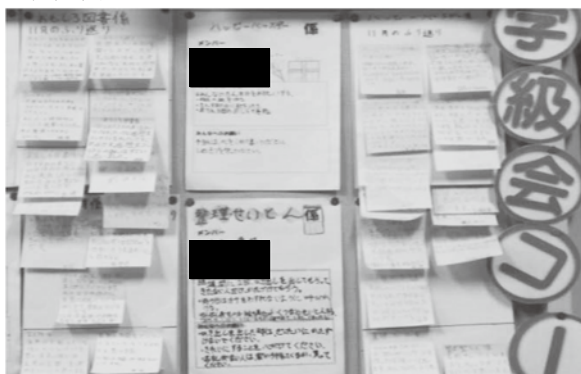
視点1 **視点2**

自他の成長を視覚的に捉えることができ、成長の実感へとつながった。様々な児童のよさに気づき、互いに認め合うきっかけともなった。

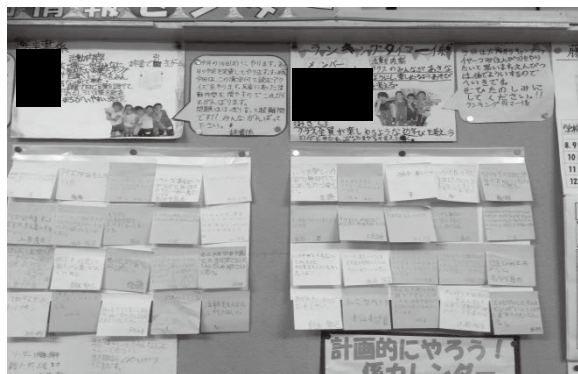
(2) 日常的な相互評価の取組

学級会だけでなく、係活動など他の学級活動にも互いのよさを認め合う工夫を取り入れた。付箋紙に書いて貼るなど、簡単に継続できるものが活用しやすい。また、「シークレットフレンドカード」を直接本人に渡す際には、一言伝えてから渡すように指導した。

<取組例>



係活動の相互評価を掲示した。



活動の相互評価はいつでもできるように付箋紙に書いて貼った。

これらの活動により、以下のような変容が見られた。

- ① 人間関係が温かなものになり、よさを認め合うきっかけとなった。

視点1

自分の頑張りを認めてもらうことで温かい気持ちになって、自分も友達のよさを見つけようとする意識が高まり、友達同士の関係が豊かになった。

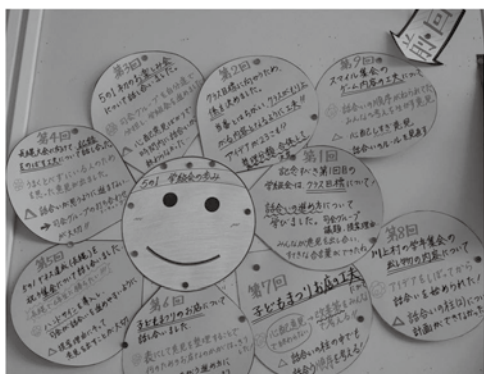
- ② 次の活動への意欲が高まり、自信をもって取り組む児童が増えた。 **視点2**

自分の活動を友達が認めてくれることで、次も頑張ろうという意欲をもつことができるようになった。「活動する→反応がある→意欲をもつ」という、よいサイクルが生まれた。

(3) 活動記録の掲示

話合い、集会・行事などの取組、振り返ったこと、教師の助言などをまとめ、写真を使うなどして壁面に掲示していった。一回一回の活動の成果を次の活動に生かせるように工夫した。

< 掲示例 >



学級会の様子を掲示したもの



係活動の振り返りを掲示したもの

これらの取組により、以下のような変容が見られた。

- ① 前回までの振り返りを生かしたためあてを決めることができるようになった。 **視点2**

前回までの振り返りを生かしながら、話合いのめあてや個人のめあてを決めることができるようになった。また、計画委員会が掲示を見ながら相談する姿が見られた。前回までの反省を次回に生かして、意欲的に計画を立てられるようになった。

- ② 成長を実感できるようになった。

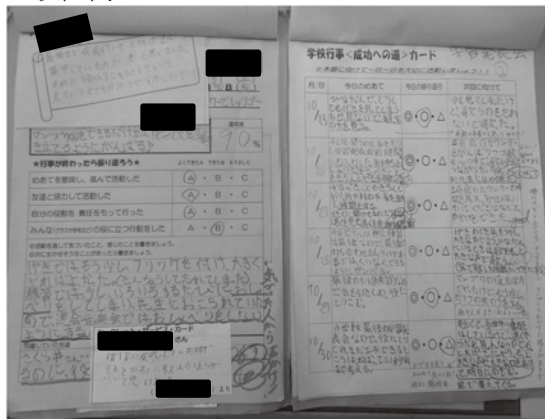
視点2

今までの活動の記録を掲示することで、活動を振り返り、自分たちの成長を実感することができるようになった。活動の成果を視覚化し、学級の成長記録をいつでも見られることが児童に自信をもたせるきっかけとなった。

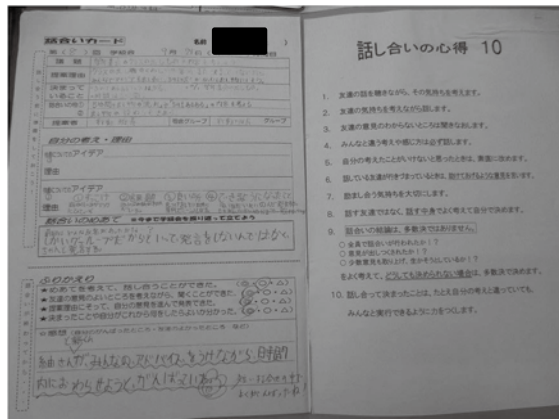
(4) ファイリングの工夫

話合い活動や実践の「学級会カード」と「振り返りカード」を一冊にまとめ、今までの活動を振り返ることができるようにした。

<取組例>



行事の振り返りなどをファイリングしたもの



学級会の振り返りなどをファイリングしたもの

これらの取組により、以下のような変容が見られた。

① 前回までの活動を振り返ることができるようになった。**視点2**

今までの自分のカードをいつでも見られることで、前回までの成果や反省点を意識しながら、活動に臨むことができるようになった。学級にとってのよい発言や行動も「振り返りカード」を見れば想起できるので、自分が次回にどのような行動すればよいか考えることができるようになった。

② 自分の成長を実感できるようになった。**視点2**

振り返りを積み重ねることで、「学級会カード」や「振り返りカード」に記入する内容やめあてに変容が見られた。よりよい活動ができるようになるなど、成長を実感することができるようになった。

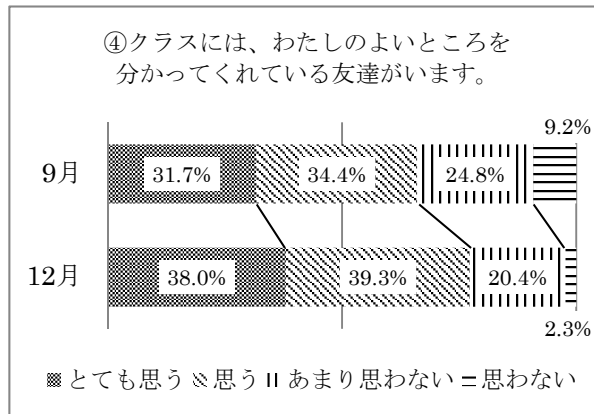
Ⅷ 成果と課題

様々な実践を積み重ねた上で、児童の変容を検証するために、12月に2度目のアンケート調査を行った。この調査の結果から本研究の成果と課題を以下にまとめた。

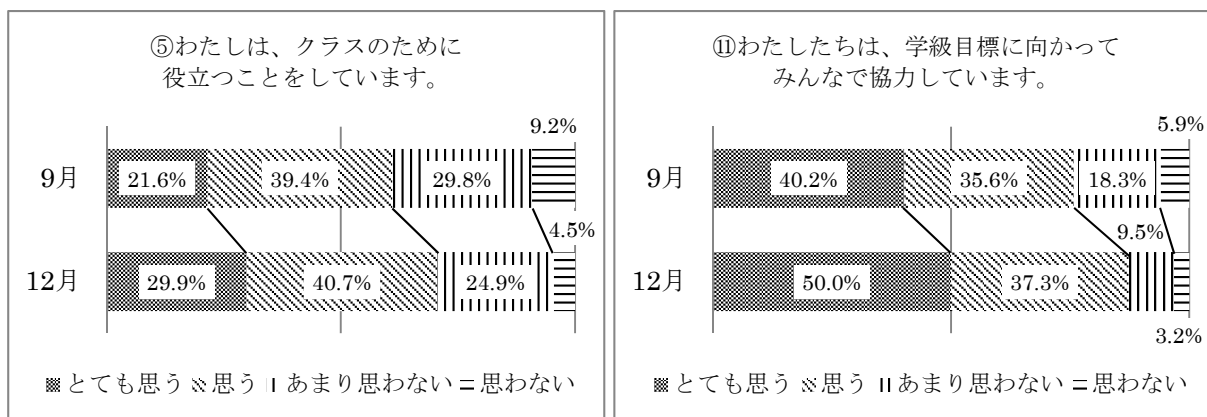
1 成果

視点1 互いのよさを認め合うことができる振り返りの工夫

(1) 質問④「クラスには、わたしのよいところを分かってくれている友達がいます」との質問に、「とても思う」「思う」と回答した児童の割合が11.2%増えていることから、よりよい人間関係が築かれてきていることが推測される。友達のよさや頑張りを見付け、伝え合うことで、友達と積極的に関わろうとしたりする様子が見られた。そのような振り返りを積み重ねることで友達との関係性が豊かになり、つながりを大切にしようとする児童が増加したと考えられる。



(2) 学級において、一人一人の居場所ができ、集団で協力する場面が多く見られるようになった。

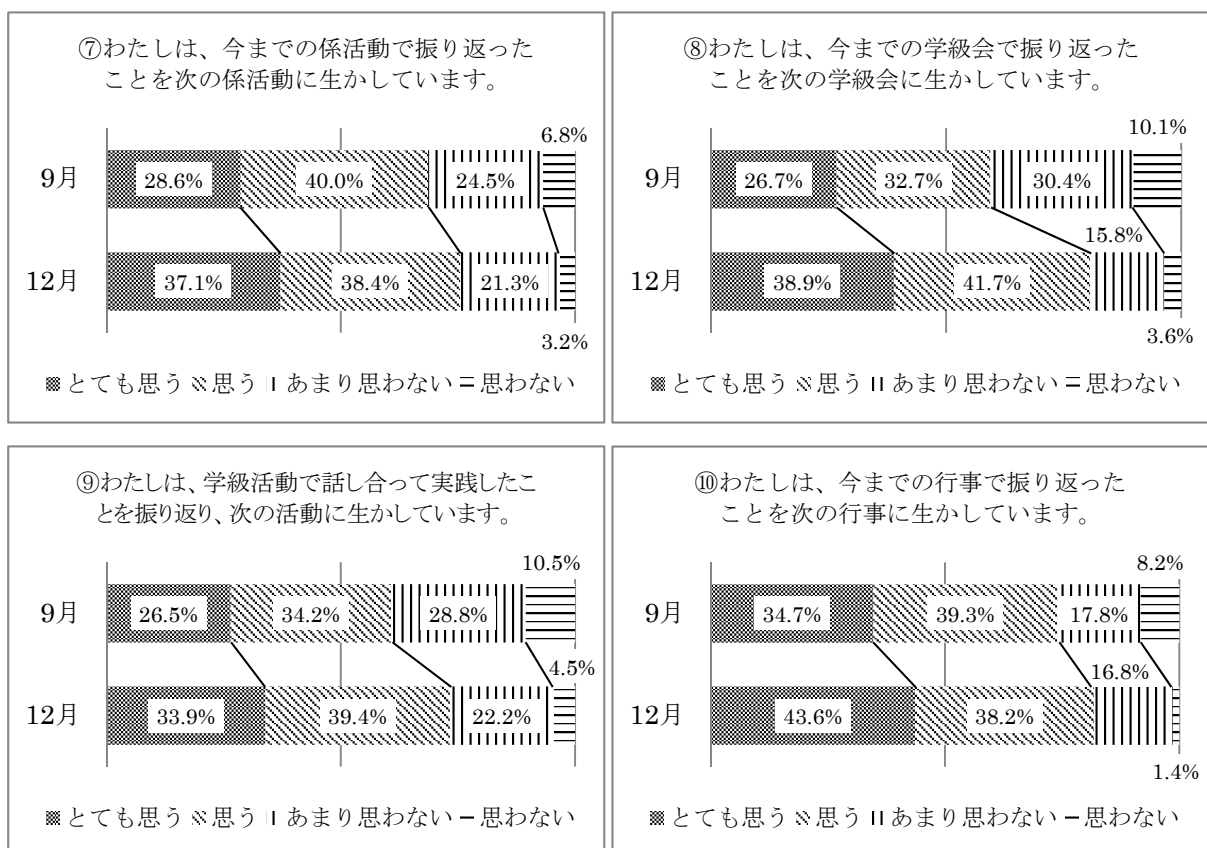


質問⑤「わたしは、クラスのために役立つことをしています」と⑪「わたしたちは、学級目標に向かってみんなで協力しています」との質問に、「とても思う」「思う」と回答した児童の割合がそれぞれ9.6%、11.5%高まったことから、以下のように考察する。

話し合い活動、集会活動、係活動、行事などの振り返りで、友達やクラスのよかったところをカードに書いて互いに発表し合ったり、教師がそのよさを価値付けたりすることを通して、自分はクラスの役に立っていると感じる児童が増えた。また、集会活動の時間や日頃の生活から、友達同士が互いに協力するとともに、更に振り返りで学級目標を意識させることによって、互いのよさを多く見付けることができるようになったと考える。

視点2 成果を次の活動に生かすことができる振り返りの工夫

(3) 学級活動において、前回の成果を次の活動に生かすようになった。



質問⑦「わたしは、今までの係活動で振り返ったことを次の係活動に生かしています」⑧「わたしは、今までの学級会で振り返ったことを次の学級会に生かしています」⑨「わたしは、学級活動で話し合って実践したことを振り返り、次の活動に生かしています」⑩「わたしは、今までの行事で振り返ったことを次の行事に生かしています」との質問に、「とても思う」「思う」と回答する児童の割合が増えた。特に、⑧においては「とても思う」と「思う」と回答した児童の割合が21.2%増えた。これらのことから、以下のように考察する。

次の活動に生かせることを意識させることで、前回までの振り返りを生かしながら活動に臨もうとする児童が増えた。また、自分の決めためあてを友達に伝えることで、めあてを意識して学級会に臨めるようになった。

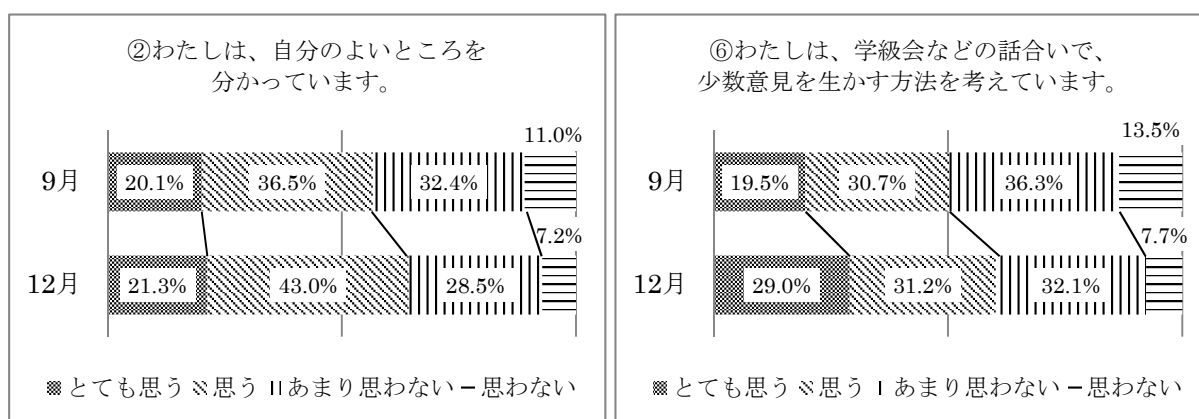
- (4) 自分や友達、集団の成長を実感しながら、一つ一つの活動をつなげて捉えることができるようになった。

学級会の「振り返りカード」において、「前はできなかったけれど、今日は自分のめあてを達成することができたのでよかった。」「〇〇さんが二つの意見を合体させる考えを言っていたのすごいなと思いました。」「提案理由に沿った意見を言っている子が多かったので、学級が前より成長したと思う。」などの振り返りを記述する児童が見られた。このことから、以下のように考察する。

活動の記録を掲示したり、振り返りカードをファイリングしたりして活動を積み重ねることを通して、活動相互のつながりを意識することができるようになった。そのことによって、自分たちの成長を実感しながら活動に臨むことができた。

2 課題

- (1) 見通しをもって話し合い活動を進めるため、提案理由の練り上げや話し合いの進め方など、前回の振り返りを生かした計画委員会への事前指導の在り方を更に深めていく必要がある。
- (2) 自分のめあての振り返りの全てを記述で書かせてはいないため、振り返りが弱かった。自分のめあてに対する振り返りを次のめあてに生かす手だてを更に検討したい。



- (3) 質問②「わたしは、自分のよいところを分かっています」と⑥「わたしは、学級会などの話し合いで、少数意見を生かす方法を考えています」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は6割である。友達の良さに気付くことができている児童に対し、自分のよさに気付かせる手だてや、話し合いにおいて少数意見を生かすことができる手だてを検討していく必要がある。

平成27年度 教育研究員名簿

小 学 校 ・ 特 別 活 動

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
品川区	大井第一小学校	教諭	瀧上 怜子
目黒区	烏森小学校	主任教諭	平山 かおり
世田谷区	太子堂小学校	教諭	伊勢 祐美子
板橋区	中台小学校	主任教諭	◎大森 美里
江戸川区	小松川小学校	教諭	河原 理恵
江戸川区	中小岩小学校	主任教諭	澤 栗 朋子
八王子市	片倉台小学校	主任教諭	秋 山 雅之
町田市	忠生第三小学校	主任教諭	榎 本 雄太

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 西 和 昌

平成27年度
教育研究員研究報告書

小学校・特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成27年度第197号〕

平成28年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社